

恵みと真理のニュース



2015 年 11 月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



[証]

私の魂を救ってくださった神様、苦難が有益と福になるようにして下さり、
今日も主の中で幸せな人生を生きるように導いてくださった神様を賛美します

私は子供の頃は豊かな家の環境で育ちました。ソウルの高校に入ってからは様々な苦難を受けて寂しい生活を過ごしました。そんな私に誰一人も福音を伝える人がいませんでした。小学校の教師になって姉弟達をソウルで上京させて共に一つの部屋に住んですぐ隣が教会でした。日曜日になると持ち越した事をするから忙しかったのですが隣の教会では聖徒で騒いで賛美が続けて聞こえてきました。あの人たちはいつ仕事をするのかとなぜ教会で一日を過ごすのか疑問になりました。同じ学校で勤務していた旦那と付き合うときに教会に行こうと誘われて好奇心で初めて教会に行きました。しかし、続けて教会に通いたくありませんでした。旦那は高校と大学に通いキリストのサークルで活動しながら担当する教師から聖書も教えてもらった真実な人でした。私を始めて見たときなぜこれから教会に熱心に行くような考えをしたそうです。

結婚して二人の息子を持っている母親で学校の教師として生活しているある日、開拓教会の牧師は私に来られ教会のオルガンの伴奏するように願いました。何回も願いましたが信仰がなかった私はさまざまいい訳をしましてその席を避けました。ところが、引越す所ごとに隣りの家が教会でした。二番目の子が6か月になる時にカチョンで引越しましたがまた隣りの家が教会でした。その時から教会へ行きたい心が出来ました。その頃から私の心の病気が始まりました。過労とストレスによる神経衰弱と言われました。表には出さないですが精神的には苦痛が酷くて言葉では表現できないほど辛い時に家の近くの教会に行きました。説教は聞いてもよく理解出来なかったのですが、礼拝後でそばをくださって子供の食事が解決できたから日曜日になると毎週教会に行きました。信仰がなくても礼拝の喜びと感動は知らなくても心が弱かった私には牧師の訪問は大きい慰めになりました。またピョンチョンからサンボンで引越しをして色々な教会をさ迷って同じアパートに住む勸士と区域長に導かれ恵みと真理教会を始めて行きました。熱心に主日礼拝を捧げるにも信仰も育たなく、

今まで前だけ見て走ってきたから心と体が疲れていたので不安障害の症状で苦しみました。水洗礼を受け執事の職分も受けて、去年、主日で行なう聖書学校に入って本格的に聖書勉強を始めました。熱心に聖書を勉強してからは神様の御言葉を聴き学ぶのが興味が出て楽しくなりました。暇に自分で聖書を読んで神様の御言葉を黙想しました。再発した病気の症状が酷くなればなるほどもっと熱心に礼拝を捧げ御言葉の恵みを求めて聖書を読みました。

神様を知り聖書の御言葉が「節々つづつ」と神様に対する私の祈りも深くなりました。聖書で出る信仰の人々の人生を黙想して信仰の本を読んで信仰で勝利した偉人達の人生を考えながら神様を仰ぎ委ねました。特に神様は私達が担える試練と苦痛を与えその苦難を変えて栄光になるようにして下さるメッセージで大きく慰めと力を得ました。心が弱くなった去年11月から2か月間病気休暇をとって学校に行けない悲しさと寂しさを教会で全ての礼拝を捧げ御言葉に耳を傾けて祈りと賛美して慰めました。その期間心弱かった信仰が大胆になり勇気を得て性格も大胆になって生死の意味も深く考えるようになり、人生の価値観を聖書的に変えて正しく整える時間になりました。

ある日、アパートを回しながら祈る時、急に「もう痛まないでわたしがあなたを癒すのだ。」とおっしゃる主の声がそれではないと私の心なのか信仰と希望の声が心から聞こえました。何日後も寝れなくて聖書を開いて御言葉を黙想する時にまた「苦難は過ぎ去る。「今の苦難があなたには有益なのだ。」という音声聞こえてきました。驚く体験でした。何日後には「今の苦難があなたの祝福になる。」と聞こえました。今まで理解出来なかった苦難の御言葉が理解できて信じるようになりました。私は今までの人生を振り返ってみました。私が歩んできた道はまっすぐではなかったのですが、今まで二人の息子がよく育って就職が難しくても良い職場に就職して家族が健康なのを考えて感謝祈りをしました。そして、永遠な地獄の罰を受けべきだった私を選んで救って下さり、悲しみと苦痛がない天国で導いて下さる神様に涙を流しながら

悔い改めました。今まで私と家族しか知らなかったが体の痛みで苦難と悲しみの中にいる人々を見るようになりました。

健康が回復して教会と礼拝中心で行きだすため学校を辞める決心をして名誉退職を申請しました。年金問題で申請者が多くて難しかったのですが、神様に祈ったら主の摂理で退職する事が出来ました。退職した後は平日の礼拝と区域礼拝も休まずに参席し、区域長の祈り会も行行って聖徒達と交際する神聖な生活をしながら心が安定になり体にも活力が出来ました。37年間の教職生活したのを辞めて惜しい気持ちがありましたが教会中心の生活をする中で惜しい気持ちを断ち切りました。

日々信仰が成長して健康になるのを感じて教会に対する愛も深くなりました。今までやってなかった教会の奉仕もしたい心が出来ました。ある日は勸士について聖歌隊の練習室に行ってみました。良く見えてその日から聖歌隊員として奉仕を始めました。神様が私のため支え献身的な場を準備して下さり、水曜日の2部礼拝で賛美で奉仕して恵みを与えるように主に用いて下さいました。主の事を希望すると予備して導いて下さる恵みに感謝します。

私は苦難を通して神様の福が来るのを実感しました。心の病気が癒され苦痛を通して神様の前まで出て罪が赦され神様の子になった祝福を受けました。礼拝と共に主が働く事を感じる喜びも体験しました。魂が癒され体も健康にしてくださいました。神様の忠誠していると僕として熱心に主の事をするように神様に祈ります。神様を知らない人々が救われ神様が下さる平安と喜びを味わって生きるように福音の種を植えます。

「卑しめられたのは私のために良いことでした。わたしはあなたの掟を学ぶようになりました。」(詩篇119:71)「御手が私を造り、固く建てて下さいました。あなたの戒めを理解させ、学ばせて下さい。」(119:73)神様は私の全ての罪を赦して下さり私の道を導いて下さった確信と喜びで感謝し、主の導きによって今日も明日もただ従順して生きるように祈りながら様に感謝と賛美を捧げます。



[信仰コラム]

一番賢くて立派な選択

“… わたしは命と死および祝福とのろいをあなたの前に置いた。あなたは命を選ばなければならない。そうすればあなたとあなたの子孫は生きながらえることができるであろう。…” (申命記 30:19,20)

神様は人に選択と決定を自分が自由にできる自由意志をくださいました。自分の自由意志で選択して決めるのが及ぶ影響と結果が運命的なことを替えることができるだけ非常に莫大です。だから選択して決める事を賢くて立派にさせるように力をつかさねなければなりません。自由意志で自由に選択することができることの中には考えと言葉と信仰があります。第一、どんな考えをするはずなのかを慎重に選択しなければなりません。

人の出来はその人の平素の考えによって形成されます。神様は私たちの祈禱と考えを通じて働きます。誰も祈る時間は短くて考える時間は多いです。かえって祈禱はちょっと不足でも考えを一日中に正しく持った方が良いです。どんな種類の考えを選択するはずなのかを決めることは非常に重要な事です。今日の考えが明日の私たちの都合になるでしょう。心は庭園のようで持続的に察して死亡と呪いに属した考えが侵透するとか根付く事がないように措置する一方命と福に属した考えを植えて作らなければなりません。祈禱と讃嘆そして聖書のお言葉を黙想して暗誦することと福音的な説教をきくことは汚染した考えをとり除くのに卓越な方法であるのみならず

まず命と福に属した考えを植えて席を取らせることに卓越な方法です。

第二、どんなものと言うはずなのかを慎重に選択しなければなりません。

人の言葉も一生を牛耳るほど重大で決定的な影響を及ぼします。神様が人を創ってから人の言葉に大きい権勢をくださったし、神様が私たちが言うことを通じて働くからです。精製されない言葉を吐き出すことはとても悪い事です。感情が激しくなれば良くないものを言いやすいので多くの場合に使う言葉をあらかじめ準備しておく必要があります。命と福に関する言葉だけ選択して使うことに決心して練習しなければなりません。これは敬虔に属した演習です。考えと言葉には命と福に属した事と死亡と呪いに属したのがあります。うちの各自が今日どこに属した考えと言葉を選択するのかによって明日にその結果を見るようになるでしょう。心に抱く考えと口から出る言葉はまるで農夫が種を畑に植えることのように時になればその実を結ぶようになるでしょう。

第三、どんな信仰を持つはずなのかを慎重に選択しなければなりません。

否定的な性格の信仰があって肯定的な性格の信仰があります。神様を嬉しくする信仰があって神様を逆う信仰があります。偶像に対する信仰は神様が憎むように思う信仰です。私たちは命と福に属した信仰を持たなければなりません。最初に、創造主や罪人をあがないて下さったまことの神様、イエスキリストを通じて自分を啓示なさった神様を信じる信仰を

持たなければなりません。イエスキリストの神様を信じることに選択した人は彼の一生で最高の選択をした人です。次に、神様のお言葉を信じる方を選択してください。こんな事に模範を見せた信仰の偉人が聖書にたくさんあるのにその中でヨシュアは代表的な人物です。40日間ガナアン地を探って帰って来たヨシュアは他の10人の斥候と違いガルレブとともに現実状況より神様の口約束を信じる方を選択しました。ガナアン地を企業でくださるといふ神様の口約束を信じようと叫びました。神様は他の10人の斥候の言葉だけきいて誤った信仰を持ったイスラエル民を荒野で迷うようにほったらかしておきました。ヨシュアはリーダーになってイスラエル民をガナアン地で導いた後に世を離れ去るまで事毎に信仰で行いました。その信仰の基準は明確であったし一様でした。エホバ神様だけ仕えて神様のお言葉を信じて神様を親しくするのです。

選択は自由だがその選択の結果は私たちの各自の責任です。聖書に基盤して聖書に合致される考えと言葉と信仰を選択するより賢くて立派な選択はないです。その結果は命と福です。神様がこれを保証します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム「緑の牧場、清い川」本の語り中」

気落ちを治める秘訣



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

今日は “気落ちを治める秘訣” に関してよく見ます。

人は誰も希望を抱いて生きて行きます。各人にはそれなりの多様な希望があるから当面した困難と苦痛を忍耐しながら生きて行きます。今日が大変でつらくても明日に対する期待感と希望があるから努力しながら忍耐するようになります。その人の生の態度と雰囲気は彼が持つ希望によって左右されます。希望は生の態度を躍動的で進取的にさせてくれます。世界第2次大戦の時のイギリスとアメリカのとりこ2万人が収容されていた日本軍とりこ収容所で8,000人のとりこが死亡したがその原因の大部分は栄養失調や疾病や過労ではなかったです。絶望したから死んだという事実が戦後の調査で判明されました。獣は食べ物さえ与えれば暮すが人はそうではないです。人は希望を持って生きて行く存在です。未来に向けた理想を抱いて生きて行きます。“絶望は死に至る病氣” という言葉のように人生で一番恐ろしい病氣は気落ちであり絶望です。人を気落ちに落ちるように働く霊的存在があります。イエスキリストがおっしゃるのを “盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。” と言いました。ここで盗人は悪魔を示しています。悪魔は人が困境に処する時に気落ちするようにします。

人が気落ちして絶望するようになる場合を何種類で分類することができます。

第一、自分が努力して苦勞した事に成果がないとか状態がもっと悪くなった場合です。第二、期待した事が成り立たないでずっと引き延びになる場合です。第三、苦痛と悲しみが極甚な場合です。第四、問題を解決するあてがなく手伝ってくれる人がないと判断する場合です。人の一生でこんな場合に全然会わないで生きて行く人はいないがそれでもすべての人が気落ちして絶望に抜けることではないです。聖書に記録された偉い人の生涯をよく見れば患難と逆境の除かれた人物は一人もありません。イスラエルの偉大な族長であるアブラハムとイサクとヤコブそしてヨセフの生涯にも気落ちさせることが多かったです。ヨブの生涯はもっと言うまでもなくて偉大なリーダーモセもそうでした。ところで彼らは気落ちするのを拒否しました。気落ちを退けました。気落ちを踏んで進みました。

ユナイテッドテクノロジー会社でアメリカの代表的な経済誌であるワルドストリートジャーナルに毎月一つずつ出す広告には人々を励まして力を引き立てるお話を載せました。その中にこんな広告文案がありました。“もし気落ちされたらこんな人を考えて見なさい。学歴は小学校を中退したし、いなかで雑貨屋を開いたがそれさえ破産したし借りたお金を返すにも15年がかかった。上院議員に立候補したが二回も落選したし、下院議員選挙にも二度下がった。歴史に残る演説をしたがその頃の聴衆はあまり関心を見せなかった。

新聞からは連日非難を浴びたし、国の半分では彼を虫のように嫌がった。想像して見なさい。こんな都合であったが全世界のどの所にもどれだけ多い人々がこの人によって啓発されて勇気を得ることができたのか。その人が死んでから100年以上が経ったのに彼の存在はもっと新しく輝く。その人がすぐエイブラハムリンカーンである。” 私たち周辺には身体的にあるいは環境的に極度に難しい状況でも気落ちするのを拒否して不運を踏んで堂々と生きて行く方々がたくさんいます。

聖書には気落ちを治める最上の方法が記録されています。その中に今日の本文で採択した詩編42編を中心にして気落ちを治める秘訣をよく見ます。

詩編記者は言うのを “人々がひねもすわたしにむかって「おまえの神はどこにいるのか」と言いつづける間はわたしの涙は昼も夜もわたしの食物であった” (詩編, 42:3) としました。しかし詩編記者は悲しんで涙を流しながら気落ちする状態にずっととどまらなかったです。まっすぐに気落ちを治めました。どのようにそういう反転ができたのかを詩編42篇5節と6節に説明しておきました。

第一、詩編記者は気落ちが心に根付くことができないように自分を咎めて励ましました。

人は自らに聞いて咎めて励ますことができる機能を持っています。詩編記者は落望している自分を咎めました。カリオテユダは大祭司長にお金をもらってイエス様を売ってしまう罪を犯しました。その後には彼は自分が行った事を大変自分を責めました。そして自責して首をつりました。ペテロはイエス様が審問を受ける現場にありました。人々がペテロを見てイエス様の弟子と言ったら彼が恐ろしがって自分はイエス様が分からないと言いました。それも三度も否認しました。ペテロは自分が行った事に対して自分を責めて外に出て泣きわめきました。その後には彼はイエス様が釘付けられて死んで葬られる現場に行きました。そして復活したイエス様をお会いできました。カリオテユダは自分を責めながらイエス様を離れ去りました。ペテロは自分を責めたがイエス様の位に進みました。

“わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう。” という詩編記者の自責は自分が神様の位に身近に進むためのことでした。私たちにもこのような自責が必要で

す。詩編記者は自分を励ましました。“あなたは神様を待ち望めと” 言いました。“その顔の助けによって私がむしろ讃えるであろう” しました。ある画家が孤児院をしばしば訪問しました。ある日彼が孤児院を訪問したら幼い少女が泣いていました。画家が幼い少女に泣く理由を尋ねるととても小さなハンカチ一枚を見せてくれながら言いました。“このハンカチはうちのママが私に譲ったとても大事なもののなのに今日つい間違いでインクを落としました。いくら洗っても消されません。” 画家はそのハンカチを何日だけ自分に貸してくれました。何日後その少女に小包が一つ送られました。小包を開けてみた少女は自分の目を疑いました。画家おじさんがハンカチに落ちたインク滴を基礎でとてもすてきな絵を描いて入れて送ってくれたのです。そのハンカチは前よりずっと美しかったです。

私たちが気落ちさせる問題でも助ける神様の手助けが触れればむしろ讃尿に変わるようになります。

第二、詩編記者は先日多くの状況で助けを施してくださった神様を思い出しました。

本文の詩編42篇6節に記録されるのを “私の神様よ私の魂が私の中で落望になるので私がヨダン地とヘルモンとミサル山で主を憶えるのです” としました。詩編記者は先日ヨダン地とヘルモンとミサル山で神様と一緒になさって手伝ってくれたことを思い出しました。皆さんも気落ちになる時に神様を思い出してください。善良で慈しみ深くて信実な神様、適切な手助けになる神様に対する考えで心を満たしてください。そんなにすれば気落ちは除去されて所望が一杯になるでしょう。イエスキリストを信じない者を示して聖書には “所望がない者” と言いました。

“またその当時は、キリストを知らず、イスラエルの国籍がなく、約束されたいろいろの契約に縁がなく、この世の中で希望もなく神もない者であった。” (エペソ人への手紙, 2:12) “兄弟たちよ。眠っている人々については、無知でいてもらいたくない。望みを持たない外の人々のように、あなたがたが悲しむことのないためである。” (テサロニケ人への第一の手紙, 4:13) と記録されました。

イエスキリストを信じて生まれかわった人には事実上絶望的な状況と言うのがないです。その理由を聖書はこんなに記録しています。“それだけではなく、患難をも喜んでい。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。” (ローマ人への手紙, 5:3~5)、“わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。” (コリント人への第二の手紙, 4:8)、“わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。” (ガラテヤ人への手紙, 6:9)、“悪しき者は死ぬとき、その望みは絶え、不信心な者の望みもまた絶える。悪しき者はその悪しき行いによって滅ぼされ、正しい者はその正しきによって、のがれ場を得る。” (箴言 11:7, 14:32) としました。聖書には “所望の神様” (ローマ人への手紙 15:13) と言ったし、“私たち所望であるイエスキリスト” (テモテへの第一の手紙, 1:1) と言いました。

不信者の一生は見込みが不透明な生に過ぎないがクリスチャンの一生は見込みが明るくて確かです。聖徒の皆さん、気落ちと絶望がただ一歩も皆さん中に足を押しこむことを受け入れないでください。神様は聖徒の所望を恥ずかしくしないです。“わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう わが魂はわたしのうちにうなだれる。それで、わたしはヨルダンの地から、またヘルモンから、ミザルの山からあなたを思い起す (詩編, 42:5~6)” このような告白が皆さんの告白になるように願います。